

ESG・サステナビリティに関する体制

味の素グループは、中長期にわたるビジョン実現のための企業戦略の骨子として、ASVのグループ全体への浸透を図っています。2020年2月には、2030年の目指す姿として、「食と健康の課題解決企業」に生まれ変わることを宣言しました。「2020-2025中期経営計画」(20-25中計)は、「食と健康の課題解決」という目的のためにあらゆる経営資源を集中することを基本方針としており、特に「過剰な塩分摂取」と「加齢による機能低下」に注目して取り組みます。気候変動、資源循環型社会構築、サステナブル調達等のESG課題についても、解決施策と2030年度までの目標を設け、着実に取り組んでいきます。

ESG・サステナビリティのマネジメントにあたっては、「味の素グループポリシー (AGP)」や関連社内規程に基づき、ISO 9001、ISO 14001等を骨格とするマネジメントシステムを構築し、そのプロセスの適正化を確保しながら運用を継続してきました。

また、経営会議の下部機構として経営リスク委員会を置き、気候変動や社会課題を含め、味の素グループ全体の経営レベルのリスクや機会について、組織横断的に対応策を策定しています。経営リスク委員会は、経営企画部担当役員が委員長を務め、委員長は委員会での議論を取りまとめ、1年に1回以上、経営会議および取締役会に報告しています。

2020年4月には、サステナビリティの推進体制を強化すべくサステナビリティ推進部を新設しました。これまで社内でもタスクフォースを組んで進めていた、栄養・環境(気候変動、資源循環型社会構築等)・社会(アニマルウェルフェア等)をテーマとする方針および戦略の策定は、サステナビリティ推進部で行います。また、事業計画へのサステナビリティ視点織り込みのための提言および実現に向けた施策のフォロー、ESGに関する社内情報の取りまとめも行い、経営会議および取締役会に報告します。

